

TOMAKOMAI
KOMAZAWA
UNIVERSITY



大学生活 ガイドブック 2011

• 2部 履修の手引き

苦小牧TOMAKOMAI
駒澤大学

1 履修をはじめるとあって

1. 長期計画をたてること

学生生活は短い。しかし人生の中で極めて重要な位置にあります。多くの人にとって、それは「教えられる」勉強の総仕上げであると同時に、社会に出てからのもっと長い人生の準備期間となります。また、卒業後は遅かれ早かれ「教える」「伝える」立場に立つこととなります。親として子の教育者になる事もあるでしょう。

国際化、情報化が進展し、ますます流動化するこれからの社会では、自ら考え、判断し、行動できる人間が求められるようになります。そうした時代や社会のニーズに応えられるよう、大学4年間の履修計画を「しっかり」たててください。また、学問が専門領域の境界を越えて学際的になってきています。幅広く学んでほしいと思います。

大学生活は、まず自分だけの時間割を作ることからはじまります。自分のルールは自分で作らなければなりません。「自己管理」がとても重要です。何年次に、何を選択し、何単位履修するのか、どのような資格を取得するのか、自分で計画設計しなければなりません。「与えられる」科目を学ぶのではなく、自分が「求める」科目を学んでほしいと思います。単に就職に有利になるというような観点からだけではなく、これからの長い人生で何が必要になるかをよく考え、いろいろな人と相談して決めてください。

2. 系統的に科目を履修すること

卒業単位は「卒業要件単位表」に沿って履修することになります。平成22年度入学生と従前の国際文化学科は2年次から所属するコースによって、履修の仕方が変わります。平成18～21年度入学の国際コミュニケーション学科では、3分野の履修モデルが設定されています。また全ての入学生・学科ともに「広域選択」科目が卒業単位として認定されています。この領域を活用して自分が何を重点的に学びたいのかを考え履修することができます。基礎的な科目でも、専門科目でも、自分の問題意識に合わせて学習してください。

科目によって履修年次が指定されている場合があります。また、Semester毎の履修単位の制限や、資格取得によっても履修単位がそれぞれ異なってきます。この履修の手引きやオリエンテーション時の配付資料をよく読んで、間違いのないように注意して、「あつという間」の学生生活を有効に活用されることを期待しています。

学生のみなさんと教職員の距離がとても近いことが、本学の最大の特徴であるといえます。入門・専門ゼミナールの先生方とは特に十分に話し合っ、目的意識を早い段階で確立し、それに沿って系統的に学習することが大学生活を充実させるための最大のカギとなります。

2 教育課程の編成

教育課程は次のように区分されます。

a) 平成22年度以降入学生

両学科共通	
(1) 一般教育科目	入門/人間/社会/科学/情報/言語/健康スポーツ
(2) 専門科目	学科指定/コース指定 (選択必修・選択)
(3) 演習科目	
(4) 実習科目	
(5) 関連科目	
教職・学芸員科目	特定の資格を得るために必要な科目で、卒業に必要な単位には含まれません。

b) 平成18～21年度入学生

国際文化学科	国際コミュニケーション学科
(1) 共通科目 入門 人間 社会 科学 情報 言語 健康スポーツ	(1) 基礎科目 こころ 人間と社会 人間と科学 スポーツ
(2) 専門科目 ※所属コースによる	(2) 言語コミュニケーション科目 (3) コンピュータコミュニケーション科目 情報入門/情報処理/情報応用
(3) 演習科目	(4) 専門科目Ⅰ コミュニケーション基幹科目/国際コミュニケーション/国際地域・比較文化
(4) 実習科目	(5) 専門科目Ⅱ 国際コミュニケーション実習/国際コミュニケーション関連ゼミ
(5) 自由科目	(6) 自由科目
教職・学芸員科目	特定の資格を得るために必要な科目で、卒業に必要な単位には含まれません。

[必修・選択の区分]

必修科目 卒業するためには、必ずその単位を修得しなければならない科目

選択必修科目 指定された授業科目の中から、決められた数を選択する科目

選択科目 自由に選択・履修でき、卒業に必要な単位として換算される科目

[広域選択]

卒業要件単位 (p.61～62) に示された区分毎の単位数を超えたものは、区分・コースの制約なしに、卒業に必要な単位数として換算されます。これを広域選択といいます。

大学で何を学びたいのか、4年間の学習計画をどのように立てるのか、「履修の手引き」「授業案内」「コースガイド (コース説明会で配布します)」をよく読んで考えましょう。 Semester毎にどの科目を選択するのか、何単位履修するのか、“計画的”に学習しましょう。

3 単位制度と単位の認定

(1) 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制とは、授業科目を履修し、学習状況・出席状況および所定の試験またはレポート等による成績評価の結果、合格することにより、授業科目ごとに定められている単位を修得していく制度です。そして、定められた期間に所定の単位数を修得することによって卒業できることとなります。

(2) 授業科目の単位数

単位とは、学修の量を数字で表したものです。現在、本学では、原則として2単位あたり30時間の授業時間が設定されています。法令では、「2単位あたり90時間の学習時間」が必要となることから、1科目につき60時間の予習・復習が必要となります。

(3) 単位の認定

授業科目ごとに定められた所定の単位を修得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

- ①単位の認定を受けようとする科目について、履修登録・確認をおこなうこと。
- ②履修科目の授業に**3分の1以上欠席**した者は、受験資格を失うことがあるので、必要な学修時間を確保すること。
- ③履修科目の試験を受け、合格（60点以上）すること。

(試験および成績評価 p. 93参照)

(4) 履修登録と確認

履修科目は、その年次において履修しようとする科目を自分の所属する学科・年次に開講されている授業科目の中から選び、履修登録届を提出して確認することにより履修登録されます。

履修登録をしない授業科目は、受講、受験しても単位は与えられません。

なお、開講されている科目のうち、一部の科目については、教育効果などを考慮して1クラスあたりの履修人数が制限されている場合があります。これらの科目を履修するには授業担当者の受講承認印が必要です。

(履修科目の登録方法 p. 84参照)

(5) 履修制限について

授業科目には、各年次ごとに必ず履修しなければならない科目や選択して履修しなければならない科目が配当されていますが、各年次において履修できる単位数には上限が定められています。

(履修制限について p. 88参照)

(6) 進級

単位修得状況とは関係なく、入学年度を基準にして在学年数によって4年次まで進級できます。

在学年数が4年以上であっても、卒業に必要な単位数を修得していなければ4年次生を継続することとなります。ただし、7年間（14セメスター）を超えて在学することはできません。

4 卒業に必要な単位数と卒業研究

(1) 卒業に必要な単位数

国際文化学部を卒業し学位を得るために必要な最低限の単位数は、以下の表のとおりです。
修得した科目名および単位数はすべて成績表に記載されます。

A 平成22年度以降入学生適用

国際文化学科・国際コミュニケーション学科共通

区 分		必修	選択必修	選 択	広域選択	卒業要件単位
一般 教育 科目	入 門	4		4	16	26 単位以上
	人 間	2	2			
	社 会		2			
	科 学		2			
	情 報		4			
	言 語		4			
	健康スポーツ		2			
専 門 科 目	学科指定		14	24	16	70 単位以上
	コース指定		所属 コース から 32			
演 習 科 目		6				6 単位以上
実 習 科 目				6		6 単位以上
関 連 科 目						
合 計		12	62	34	16	124 単位以上

B 平成18～21年度入学生適用

国際文化学科

区 分		必修	選択必修	選 択	広域選択	卒業要件単位
共 通 科 目	入 門	2		6	22	28 単位以上
	人 間	2	2			
	社 会		2			
	科 学		2			
	情 報		6			
	言 語		4			
	健康スポーツ		2			
専 門 科 目	仏教文化論コース		所属 コース から 32	所属 コース から 30	22	62 単位以上
	比較文化論コース					
	英語文化論コース					
	企業文化論コース					
	北海道地域文化論コース					
演 習 科 目		6				6 単位以上
実 習 科 目			6			6 単位以上
自 由 科 目						
合 計		10	56	36	22	124 単位以上

国際コミュニケーション学科

区 分		必修	選択必修	広域選択	卒業要件単位	
基礎科目	こころ			22	14 単位以上	
	人間と社会					
	人間と科学		14			
	スポーツ					
言語コミュニケーション科目		4	8			12 単位以上
*	情報入門	4			20 単位以上	
	情報処理		6			
	情報応用		10			
専門科目Ⅰ	コミュニケーション基幹科目		18		18 単位以上	
	国際コミュニケーション		18		18 単位以上	
	国際地域・比較文化		6	6 単位以上		
専門科目Ⅱ	国際コミュニケーション実習		6	14 単位以上		
	国際コミュニケーション関連ゼミ	8				
自由科目						
合 計		16	86	22	124 単位以上	

* コンピュータコミュニケーション科目

※平成 17 年度以前入学生の卒業所要単位は別に定めます。

(2) 卒業研究

「卒業研究」は4年間にわたる国際文化学部での学習を総括するもので、その成果を「卒業論文」としてまとめるものです。研究の内容が一定の水準に達していることはもちろん、適切な方法に従って研究を進めなければなりません。自己の研究目標に基づき、単に多くの知識や情報が含まれているのではなく、体系的にまとめた知識の修得が必要で、様々な事実や意見を踏まえて自分なりの主張を導き出し、それを的確に表現することが求められます。

「卒業論文」作成にあたっては、指導教員の研究指導を受けることが前提になっていますので、論文テーマの決定、研究方法、論旨の展開の仕方等については指導教員と相談して下さい。論文の内容や形式が不備な場合には受理されないことや、合格点がもらえないことがありますので注意して下さい。

1. 受講対象者

「専門ゼミナール3」履修中の3年次生、または「専門ゼミナール1」履修中の編入学3年次生です。

2. 原則として個人研究とします。

3. 必要な手続き

①内諾について

3年次のうちに受講している「専門ゼミナール3」および「専門ゼミナール1」の担当教員から、事前に「卒業研究」を履修したい旨を申し出て内諾を取っておいて下さい。

②履修登録について

4年次の春semester履修登録時に「専門ゼミナール3」および「専門ゼミナール1」担当教員から「卒業研究」受講承認印またはサインをもらって、履修登録をして下さい。

③論題（仮）提出について

論題は所定の用紙に楷書で正確に記入し、担当教員から署名及び承認印をもらった後、履修登録日に教務課に提出して下さい。用紙は教務課にあります。

④指導教員（主査・副査）の決定

主査：原則として受講している「専門ゼミナール3」または「専門ゼミナール1」の教員が担当し、「卒業研究」論文作成の指導をします。

副査：所属コースが専任教員の中から選出します。副査は主査を補佐します。

⑤論題（決定）及び研究計画書の提出について

論題及び研究計画書は所定の用紙に楷書で正確に記入の上、指導教員の承認印を受けて教務課に提出して下さい。提出された論題の変更は認めません。

用紙は教務課にあります。

⑥論文作成について

- ・論文作成にあたっては、常に指導教員に相談して、その指導を受けなければなりません。
- ・論文は提出した論題により、所定の書式で作成して下さい。
- ・手書きの論文は楷書で丁寧に書いて下さい。
- ・論文の枚数・用紙・表紙・体裁は指導教員の指示に従って下さい。

⑦論文提出について

- ・論文は「卒業研究審査願」とともに教務課に提出して下さい。
- ・卒業研究審査願と論文表紙の論題は、主題・副題とも同一でなければなりません。
- ・論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出して下さい。
- ・論文提出期限に遅れた場合は受理できません。

⑧「卒業研究」審査について

- ・「卒業研究」はコース担当教員によって審査・口頭試問を行い、可否を判定します。

4. スケジュール (平成 23 年度)

登録・履修手順	備 考	春 入 学	秋 入 学
①卒業研究説明会	対象学生	11月中旬	4月 (オリエンテーション期間)
②履修登録／論題提出	原則として「専門ゼミナール3」または「専門ゼミナール1(編入学生)」担当教員から「卒業研究」受講承認印又はサインをもらう。(学生→教務課)	4月上旬 (履修登録日)	9月 (履修登録日)
③主査・副査決定	主査：原則として「専門ゼミナール3」または「専門ゼミナール1」担当教員があたる 副査：所属コースが専任教員の中から選出する (主査→教務課)	5月中	10月中
④論題及び研究計画書の提出	提出後は変更不可(学生→教務課)	6月6日	11月4日
⑤卒業研究提出	時間厳守(最終日17:00) (学生→教務課)	12月1～8日 (平日)	5月7～14日 (平日)
⑥口 頭 試 問	コース毎に実施する	(定期試験最終日から2日間)	(論文提出期間最終日から6週間後の2日間)
⑦卒業研究発表会	会場：苫小牧市文化会館(予定)	(口頭試問後最初の土曜日)	7月 (第2土曜日)

※3年次秋に留学する学生は「専門ゼミナール3」担当教員と事前に話し合い了解を取っておいて下さい。

(3) 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上(7年を超えてはならない)在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学位が与えられます。

学士(国際文化学)

《9月卒業について》

春セメスターの終了時に在学期間を満たし卒業に必要な単位を修得した場合は、9月15日付で卒業できます。9月15日付の卒業を希望する者は、事前に定められた期間に「9月卒業申請書」を提出しなければなりません。

なお、上記の者が3月卒業を希望する場合は秋セメスターを休学することができます。

5 開講科目と履修科目

(1) セメスター制度

セメスター制とは、1つの授業を1年間通して実施する通年制とは異なり、1つの授業を学期（セメスター）毎に完結させる制度です。

科目は1セメスター週1コマ（1回の授業）を受講し、定期試験に合格すれば単位を修得できます。ただし、4単位科目については、1セメスター週2コマを受講します。



(2) 履修に関する一般的注意

① 開講科目は、段階的履修・教育効果を考慮し教授会の定めにより各年次に配当されています。各年次に配当された授業科目は、当該年次に履修しなければなりません。ただし、下級年次に配当された科目を上級年次において履修することは差し支えありません。

② セメスター毎に履修できる単位の上限については、別に定めます。

(履修制限について p.88参照)

③ 一度単位の認定を受けた科目を再度履修することはできません。

(3) 一般教育科目（共通科目）について

1. 「仏教学」（必修）について

本学は、仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、学校教育を行うことを目的として設置されており、この点が私学としての本学の特色です。この設置の目的に基づき、全学生諸君が仏教の教えについて理解を深め、正しい認識を身につけることを教科の目標とします。

(平成18～21年度入学生における国際コミュニケーション学科は必修ではありませんが、駒澤大学の建学の精神を理解するために受講することが望まれます。)

科目名	単位	履修年次
仏教学	2	1年次

2. 大学入門ゼミナール（必修）について

大学生とは、学問を「教えてもらうひと」（生徒）ではなく、「自ら学ぶひと」（学生）にほかなりません。そこで、大学に入学した皆さんは、大学での授業の受け方から、本の読み方、図書館やコンピュータの利用方法、レポートの書き方、発表の仕方など「学びの技術」を身につけることが必要となります。これらを一通り実際に経験し、学問をするうえで最低限のルールを身に付けて、「生徒から学生へ」と変わることが、大学入門ゼミナールの目的です。

※大学入門ゼミナールは、専門ゼミナールを履修する前に習得しておくことが望まれます。

科目名	単位	履修年次
大学入門ゼミナール1、2	2	1年次

「大学入門ゼミナール1、2」の詳細は、授業案内をご確認ください。

3. 一般教育科目（共通科目）の履修方法

- ①一般教育科目（共通科目）は、それぞれ定められた単位を修得しなければなりません。
- ②一般教育科目（共通科目）の修得単位数が、選択必修として必要な単位数を超えた場合、その超えた分の単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。
(※平成17年度以前入学生の国際コミュニケーション学科は広域選択には算入されません。)

(4) 専門科目について

本学では、各コースの専門分野に関係するさまざまな科目を開講しています。2年生から各コースに所属するため、1年生の4月オリエンテーション時に第1回所属（希望）調査を行った後、12月第1週の『コース説明会』において、コース配属に関する詳しい説明並びにコース及び学科の最終決定を行います。コースに所属後は、所属コースや関心に沿って、卒業に必要な科目を履修していくことになります。

国際文化学科（平成22年度以降入学生）

比較文化コース

グローバル化の時代にあって、日本が世界の中で如何にあるべきかを検証し、併せて、現代社会に不可欠な異文化理解を深め、世界的視野でものごとを考察できる人間形成を目指しています。異文化理解を深めつつ幅広い教養を身につけて、卒業後さらに大学院進学等を志望する学生を想定したコースです。

仏教文化コース

日本の精神社会に影響を与えてきた仏教について、インド、中国、日本等世界的な視点から総合的に学び、豊かな心の涵養を目指しています。世界の各地に展開した仏教文化を学びつつ、曹洞宗教師資格（2等教師）の取得を志望する学生を想定したコースです。

日本文化コース

日本人学生にとっては異文化理解の根底にある自文化たる日本文化を学び、留学生にとっては異文化たる日本文化を学ぶことによって、国際人としての資質を身につけることを目指しています。日本文化を多角的に学びつつ卒業後さらに大学院進学等を志望する学生、とくに海外からの留学生を想定したコースです。

北海道・アイヌ文化コース

本学の位置する胆振・日高の地域特性から、地域文化たる北海道の文化、及びアイヌ文化を総合的に学び、多様な視点から社会を考察できる人材の育成を目指しています。北海道及びアイヌ文化を多角的に学びつつ、博物館学芸員等を志望する学生を想定したコースです。

地域社会・行政コース

北海道の抱える地方としての財政的な問題点を見据え、社会科学的観点から地域社会の問題を考察することにより、地方公務員を始めとする地域社会に貢献することのできる人材の育成を目指しています。現代日本における地域社会の抱える諸問題を学び、地域社会で活躍することを志望する学生を想定したコースです。

国際コミュニケーション学科

情報ビジネスコース

ICT(情報通信技術)スキルの習得が不可欠な情報社会で、情報システムや経済、ビジネスの基本を習得し、地域経済界で活躍できる人材の育成を目指しています。その目標を達成するために、ICTスキルや簿記実務能力達成度を図る各種検定試験対策を行います。ICTと経済、ビジネスの基本を習得して、地域経済界において活躍することを望む学生を想定したコースです。

英語コミュニケーションコース

国際人としての必須技能とも言える英語力を高め、実用的なレベルで活用できることを目標とし、英語を用いて社会に貢献できる人材の育成を目指しています。英語コミュニケーション能力を身に付けて英語教師や英語を駆使する職業、さらに大学院進学を志望する学生を想定したコースです。

—所属コース変更についての注意点—

2年次終了まではコースの変更が可能です。

所属コースを変更する場合は、変更承認までに時間を要しますので、第3セメスターの7月末、または第4セメスターの2月末（秋入学生は第3セメスターの2月末、第4セメスターの7月末）までに「所属コース変更願」を提出してください。なお、学科変更をとまなうコース変更に関しては、「転科に関する規程」によるものとします。変更願提出までに専門ゼミナール担当教員、所属コース幹事、変更希望コース幹事と十分に相談のうえ承認（承認印）を得てください。

専門科目の履修方法

- ①専門科目は、学科指定科目、コース指定の選択必修科目及び選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得しなければなりません。十分に検討して履修することが必要です。
- ②学科指定科目の修得単位数が、学科指定科目として必要な単位数を超えた場合、その超えた分の単位は、卒業に必要な単位として専門科目の選択科目または広域選択の単位数に算入されます。
- ③選択必修科目の修得単位数が、選択必修として必要な単位数を超えた場合、その超えた分の単位は、卒業に必要な単位として専門科目の選択科目または広域選択の単位数に算入されます。
- ④他学科の専門科目を履修し修得した単位は、卒業に必要な単位として専門科目の選択科目または広域選択の単位数に算入されます。
- ⑤選択科目の修得単位数が、選択科目として必要な単位数を超えた場合、その超えた分の単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

【学科指定科目】（平成22年度以降入学生）

科目名	必修	選択	備考
日本文化概論		2	13科目中、選択必修7科目 14単位以上
アイヌ文化概論		2	
禅文化論		2	
欧米文化概論		2	
比較文化概論		2	
多文化社会論		2	
国際関係論A		2	
国際関係論B		2	
国際協力論		2	
コミュニケーション論A		2	
コミュニケーション論B		2	
異文化コミュニケーション		2	
情報システム		2	

比較文化コース（平成22年度以降入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
比較文化		2	29 科目中、選択必修 32 単位以上
比較文学		2	
比較思想		2	
比較宗教		2	
比較憲法		2	
比較政治		2	
異文化交流論A		2	
異文化交流論B		2	
異文化交流論C		2	
東西交渉史		2	
文化伝承論		2	
西洋思想史		2	
ヨーロッパ文化A		2	
ヨーロッパ文化B		2	
ヨーロッパ文化C		2	
ヨーロッパ文化D		2	
ヨーロッパ文化E		2	
イギリス文化論		2	
イギリス文学論		2	
ロシア文化論		2	
アメリカ文化論A		2	
アメリカ文化論B		2	
オセアニア文化論		2	
アジア文化A		2	
アジア文化B		2	
アジア文化C		2	
日本文化論		2	
日本宗教史		2	
卒業研究		6	

仏教文化コース（平成22年度以降入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
インド仏教史 A		2	26 科目中、選択必修 32 単位以上
インド仏教史 B		2	
中国仏教史		2	
中国禅思想史		2	
日本仏教史 A		2	
日本仏教史 B		2	
日本禅思想史		2	
仏教史特講 A		2	
仏教史特講 B		2	
仏教史特講 C		2	
仏教史特講 D		2	
曹洞宗学 A		2	
曹洞宗学 B		2	
曹洞宗経典・行持解説		2	
仏教説話		2	
アジア文化 A		2	
アジア文化 B		2	
アジア文化 C		2	
日本文化論		2	
日本思想史		2	
日本宗教史		2	
西洋思想史		2	
比較文化		2	
比較思想		2	
比較宗教		2	
卒業研究		6	

日本文化コース（平成22年度以降入学生）

【選択必修科目】

選択必修科目	必修	選択	備考
日本文化論		2	27 科目中、選択必修 32 単位以上
日本現代文化論		2	
日本思想史		2	
日本文学史A		2	
日本文学史B		2	
日本現代文学論		2	
日本史研究A		2	
日本史研究B		2	
日本宗教史		2	
日本地理（地誌を含む）A		2	
日本地理（地誌を含む）B		2	
日本民俗学		2	
日本仏教史A		2	
日本仏教史B		2	
日本禅思想史		2	
日本食文化論		2	
日本法制史		2	
文化伝承論		2	
比較文化		2	
異文化交流論A		2	
異文化交流論B		2	
北海道文化論		2	
北海道文学論		2	
北海道地方史		2	
北海道地方史特講A		2	
北海道地方史特講B		2	
卒業研究		6	

北海道・アイヌ文化コース（平成22年度以降入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
北海道文化論		2	27科目中、選択必修 32単位以上
北海道文学論		2	
北海道地方史		2	
北海道地方史特講A		2	
北海道地方史特講B		2	
地域文化論A		2	
地域文化論B		2	
地域文化論C		2	
地域環境論		2	
環境保護論		2	
北海道環境論		2	
北海道観光論		2	
北海道の自然と食文化		2	
日本食文化論		2	
国際食文化論A		2	
国際食文化論B		2	
社会人類学		2	
文化伝承論		2	
ロシア文化論		2	
アイヌ文化論		2	
アイヌ史A		2	
アイヌ史B		2	
アイヌ口承文芸論		2	
アイヌ文学論		2	
北東アジア民族史		2	
北方文化論		2	
卒業研究		6	

地域社会・行政コース（平成22年度以降入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
法学概論		2	26 科目中、選択必修 32 単位以上
憲法A		2	
憲法B		2	
比較憲法		2	
行政法		2	
地方自治法		2	
自治行政		2	
日本法制史		2	
国際法A		2	
国際法B		2	
比較政治		2	
地域経済論		2	
地方財政論		2	
地域環境論		2	
北海道文化論		2	
北海道地方史		2	
北海道観光論		2	
現代スポーツ論		2	
国際スポーツ論		2	
家族社会学A		2	
家族社会学B		2	
女性学		2	
社会福祉論		2	
高齢者福祉		2	
障害者福祉		2	
卒業研究		6	

情報・ビジネスコース (平成22年度以降入学生)

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
情報システムの開発と利用		2	21 科目中、選択必修 32 単位以上
情報の検索と発信		2	
データマイニング		2	
データベース		4	
プログラミング入門		2	
応用プログラミング		2	
マルチメディア		2	
表計算		2	
情報特別演習A		4	
情報特別演習B		4	
日本経済論		2	
地域経済論		2	
アジア経済論		2	
経営学総論		2	
財務会計論		2	
原価計算論		2	
管理会計論		2	
経営分析論		2	
簿記特別演習A		4	
簿記特別演習B		4	
卒業研究		6	

英語・コミュニケーションコース（平成22年度以降入学生）

【選択必修科目】

選択必修科目	必修	選択	備考
Basic English Skill 1		2	30 科目中、選択必修 32 単位以上
Basic English Skill 2		2	
Basic English Skill 3		2	
Basic English Skill 4		2	
Reading 1		2	
Reading 2		2	
Composition English 1		2	
Composition English 2		2	
Communication English		2	
Discussion 1		2	
Discussion 2		2	
Debate		2	
英語学概論		2	
英文法A		2	
英文法B		2	
時事英語		2	
総合英語A		2	
総合英語B		2	
総合英語C		2	
総合英語D		2	
総合英語E		2	
英米文学史A		2	
英米文学史B		2	
作品鑑賞A		2	
作品鑑賞B		2	
イギリス文化論		2	
イギリス文学論		2	
アメリカ文化論A		2	
アメリカ文化論B		2	
卒業研究		6	

仏教文化論コース（平成18～21年度入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
インド仏教史1		2	20科目中、選択必修16科目 32単位以上
インド仏教史2		2	
中国仏教史		2	
中国禅思想史		2	
日本仏教史		2	
日本禅思想史		2	
仏教史特講A		2	
仏教史特講B		2	
仏教史特講C		2	
仏教史特講D		2	
禅文化論		2	
仏教説話		2	
インド思想史		2	
南アジア文化論		2	
チベット文化論		2	
東アジア文化論		2	
日本文化論		2	
比較宗教論		2	
比較文化論		2	
比較思想		2	

【選択科目】

科目名	必修	選択	備考
曹洞宗学1		2	25科目中、選択15科目 30単位以上
曹洞宗学2		2	
曹洞宗経典・行持解説		2	
東アジア交流論		2	
東アジア文学交流論		2	
北東アジア民族史		2	
アイヌ文化論		2	
日本史研究		2	
北海道地方史		2	
民俗学		2	
日本思想史		2	
西洋思想史		2	
ヨーロッパ文化論A		2	
ヨーロッパ文化論B		2	
イギリス文化論		2	
アメリカ文化論		2	
比較文化論特講		2	
社会人類学		2	
キリスト教伝播論		2	
日本キリスト教史		2	
日本古典文学史		2	
日本近代文学史		2	
日本食文化論		2	
経営学総論		2	
日本経済論		2	

比較文化論コース（平成18～21年度入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
比較文化論		2	20科目中、選択必修16科目 32単位以上
比較文化論特講		2	
比較思想		2	
比較宗教論		2	
比較文学論		2	
比較憲法		2	
比較憲法特講		2	
比較政治		2	
東西交渉史		2	
東西交渉史特講		2	
東アジア文学交流論		2	
日本文化論		2	
ヨーロッパ文化論A		2	
ヨーロッパ文化論B		2	
ヨーロッパ文化論C		2	
ヨーロッパ文化論D		2	
ヨーロッパ文化論特講A		2	
ヨーロッパ文化論特講B		2	
オセアニア文化論		2	
オセアニア文化論特講		2	

【選択科目】

科目名	必修	選択	備考
禅文化論		2	25科目中、選択15科目 30単位以上
東アジア文化論		2	
南アジア文化論		2	
チベット文化論		2	
北方文化論		2	
アイヌ文化論		2	
イギリス文化論		2	
イギリス文学論		2	
アメリカ文化論		2	
アメリカ文化論特講		2	
民俗学		2	
北東アジア民族史		2	
日本古典文学史		2	
日本思想史		2	
西洋思想史		2	
異文化コミュニケーション		2	
キリスト教伝播論		2	
日本キリスト教史		2	
社会人類学		2	
国際社会論1		2	
国際社会論2		2	
国際情勢1		2	
国際情勢2		2	
国際食文化論1		2	
国際食文化論2		2	

英語文化論コース（平成18～21年度入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
英文講読1		2	20科目中、選択必修16科目 32単位以上
英文講読2		2	
時事英語1		2	
時事英語2		2	
Composition English1		2	
Composition English2		2	
Communication English1		2	
Communication English2		2	
Discussion1		2	
Discussion2		2	
Debate1		2	
Debate2		2	
英米文学史1		2	
英米文学史2		2	
作品鑑賞1		2	
作品鑑賞2		2	
イギリス文化論		2	
イギリス文学論		2	
アメリカ文化論		2	
アメリカ文化論特講		2	

【選択科目】

科目名	必修	選択	備考
英語学概論		2	25科目中、選択15科目 30単位以上
英文法		2	
総合英語A		2	
総合英語B		2	
総合英語C		2	
総合英語D		2	
総合英語E		2	
総合英語F		2	
ヨーロッパ文化論A		2	
ヨーロッパ文化論B		2	
ヨーロッパ文化論C		2	
ヨーロッパ文化論D		2	
ヨーロッパ文化論特講A		2	
ヨーロッパ文化論特講B		2	
オセアニア文化論		2	
オセアニア文化論特講		2	
異文化コミュニケーション		2	
比較文化論		2	
西洋思想史		2	
キリスト教伝播論		2	
国際文化論1		2	
国際文化論2		2	
国際経営論		2	
国際貿易論		2	
国際経済論		2	

企業文化論コース（平成18～21年度入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
経営学総論		2	20科目中、選択必修16科目 32単位以上
経営管理論		2	
経営組織論		2	
労務管理論		2	
国際経営論		2	
金融論		2	
国際金融論		2	
財政論		2	
会計学総論		2	
財務会計論		2	
原価計算論		2	
管理会計論		2	
経営分析論		2	
簿記学1		2	
簿記学2		2	
簿記学3		2	
日本経済論		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
北海道経済論		2	

【選択科目】

科目名	必修	選択	備考	
国際貿易論		2	23科目中、30単位以上	
物流サービス論		2		
マーケティング論		2		
中小企業論		2		
NPOマネジメント		2		
北海道観光論		2		
地域産業論		2		
地方自治法		2		
自治行政		2		
環境保護論		2		
比較文化論		2		
比較憲法		2		
比較政治		2		
国際社会論1		2		
国際社会論2		2		
国際食文化論1		2		
国際食文化論2		2		
国際協力論		2		※
総合英語C		2		
総合英語D		2		
システム設計		4		※
データベース		4		※
データマイニング		2		※

※平成17年度以前入学生適用は別に定める。

北海道地域文化論コース（平成18～21年度入学生）

【選択必修科目】

科目名	必修	選択	備考
北海道文化論		2	20科目中、選択必修16科目 32単位以上
北海道文学論		2	
北海道地方史		2	
アイヌ史		2	
地域文化論A		2	
地域文化論B		2	
地域文化論C		2	
地域環境論1		2	
地域環境論2		2	
環境保護論		2	
地域産業論		2	
北海道経済論		2	
北海道の自然と食文化		2	
地方自治法		2	
自治行政		2	
アイヌ文化論		2	
アイヌ口承文芸		2	
アイヌ近代文学論		2	
アイヌ生活史		2	
北東アジア民族史		2	

【選択科目】

科目名	必修	選択	備考
北方文化論		2	25科目中、選択15科目 30単位以上
社会人類学		2	
社会調査論		2	
日本史研究		2	
地方史研究		2	
民俗学		2	
日本文化論		2	
比較文化論		2	
比較文化論特講		2	
東アジア交流論		2	
北海道観光論		2	
経営学総論		2	
物流サービス論		2	
中小企業論		2	
NPOマネジメント		2	
日本経済論		2	
地域経済論		2	
比較政治		2	
国際食文化論1		2	
国際食文化論2		2	
日本食文化論		2	
日本近代文学史		2	
日本現代文学論		2	
日本思想史		2	
禅文化論		2	

国際コミュニケーション学科（平成18～21年度入学生）について

国際コミュニケーション学科（平成18～21年度入学生）の大きな特徴は、「英語コミュニケーション」「コンピュータコミュニケーション」「非言語コミュニケーション」の3つの分野を同時に学ぶことです。関心に沿って、卒業に必要な科目を履修していくことになります。それぞれの科目配置は教育課程表をご確認ください。

（5）演習科目について

～専門ゼミナール（演習）とは～

大学での学習・研究の柱となる、みなさんが主体となって学ぶ少人数制の授業です。教員が一方的に授業を展開するのではなく、みなさんの興味・関心から「ゼミ」と研究テーマを選び、自ら情報収集し、互いに報告・討論し合うことによって、自らの専門領域、そして「学びの実感」を身につけます。ゼミナールでは特に学生相互、学生と教員のコミュニケーションが重視されます。

2年次より各自が「専門ゼミナール」に所属しての学習が始まります。国際文化学科「専門ゼミナール」はすべて、所属コースの担当教員の専門ゼミナールを履修してください。履修登録の際には必ず、担当の先生から承認印を得てください。（受講定員各10名）

国際コミュニケーション学科「専門ゼミナール」はすべて国際コミュニケーション学科所属の先生の「専門ゼミナール」を履修してください。（受講定員各10名）

原則として、「専門ゼミナール1」を履修した同じ担当者の「専門ゼミナール2」「専門ゼミナール3」と段階的に学習していくことになりますので、学習内容をよく考えて担当教員を決めてください。

2年次の7月に『専門ゼミナール調査票』にて調査を行います。

※特段の理由がある場合、教授会の審議を経て他コースの「専門ゼミナール」履修を認めることがあります。詳しくは教務課にお尋ねください。

（6）日本語科目について

『外国人留学生』および『海外帰国子女』を対象とする科目です。外国人留学生は、「日本語」科目を優先し、原則として1・2年次において履修してください。

修得した単位は、卒業に必要な関連科目（広域選択）として単位数に算入されます。

科目名	内 容	単 位
日本語 1	文法 1	1
日本語 2	文法 2	1
日本語 3	文字・語彙 1	1
日本語 4	文字・語彙 2	1
日本語 5	読解 1	1
日本語 6	読解 2	1
日本語 7	コミュニケーション 1	1
日本語 8	コミュニケーション 2	1

（平成22年度以降入学生）

(7) 留学した学生の単位認定について

充実した留学制度は本学の一大特色です。本学は、半年で単位取得ができる Semester 制度を導入している所以在学中であっても留学がしやすく、留学している間の学修も帰国後に本学の単位として認定を受けることができます。留学先の大学で所定の時間数を受講すると、帰国後は下記の指定科目が単位認定されます。

1. 単位認定手続き

学生の留学に関する規程第9条の2により下記の書類を整える必要があります。

1. 既修得単位認定願・・・・・・・・・・教務課にあります。
2. 留学期間がわかる書類
3. 履修時間がわかる書類
4. 修了証・・・・・・・・・・在籍証明書ではありません。
・成績、合格がわかる書類・・・・・・・・修了証が無い場合に必要です。
・出席率がわかる書類・・・・・・・・成績、合格がわかる書類が無い場合に必要です。
5. 留学先校のパンフレット（授業内容記載）
6. その他本学が指定する書類

2. 単位認定について

単位が認定されるのは、教授会で留学が許可された場合です。帰国後に上記書類が提出されたのちに審議して認定します。留学先校の成績が不合格評価の部分については認定されません。申請は帰国後1ヶ月以内に行ってください。

3. 認定される科目及び単位数は以下のとおりです。

【英語圏の外国の場合】

国際文化学科

2010年以降入学・・・・・・・・・・90時間2単位認定

①実践外国語1～8（各2単位） 2～16単位

②実践国際交流1・2（各1単位） 1～2単位

2009年以前入学・・・・・・・・・・60時間2単位認定

①実践外国語1～8（各2単位） 2～16単位

②実習科目 1～2単位

※②は認定の単位数は2単位を上限とし、留学期間が1 Semester の場合は1単位、2 Semester の場合は2単位を分野で認定する。

※②で1単位申請の場合は2000字程度、2単位申請の場合は留学の前半と後半に分けて各2000字程度のレポート提出で判断する。（字数明記）

国際コミュニケーション学科

2010年以降入学・・・・・・・・・・90時間2単位認定

①実践外国語1～8（各2単位） 2～16単位

②実践国際交流1・2（各1単位） 1～2単位

2006年～2009年入学・・・・・・・・・・60時間2単位認定

①実践外国語1～8（各2単位） 2～16単位

②国際コミュニケーション実習（レポート2000字程度の課題提出で判断）

1～2単位

※②は認定の単位数は2単位を上限とし、留学期間が1セメスターの場合は1単位、2セメスターの場合は2単位をの分野で認定する。

※②で1単位申請の場合は2000字程度、2単位申請の場合は留学の前半と後半に分けて各2000字程度のレポート提出で判断する。(字数明記)

【その他の外国の場合】

国際文化学科

※認定方法は【英語圏の外国】に準ずる。

国際コミュニケーション学科

※認定方法は【英語圏の外国】に準ずる。

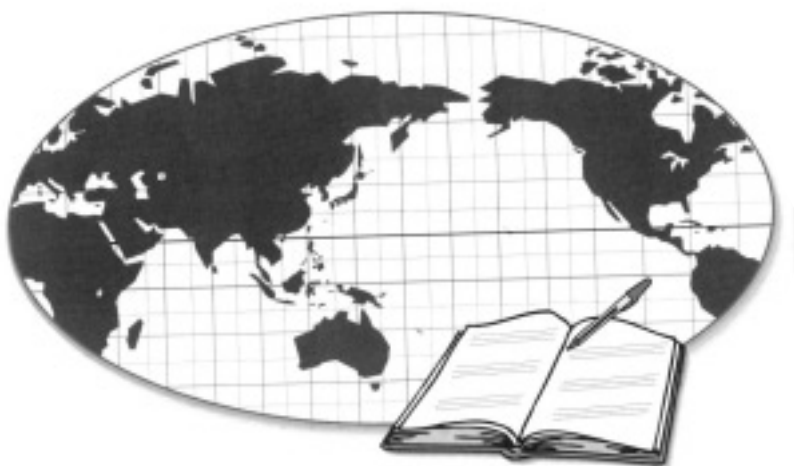
【専門科目】

- ・ 専門科目の認定は、外国の大学で単位を修得した場合で、**成績表と学習内容を明記した書類（シラバス等）**の提出を条件として個別に審議する。

(注) 外国の大学で外国語の単位を修得の場合及び専門学校のコース等修了の場合は実践外国語1～8で単位を認定する。

(その他)

- ・ 教育職員免許状の申請は留学による単位認定は認められないので、教職に関する科目については正規に履修して単位を修得する。



(8) 各種資格課程

各種資格課程の履修希望者は、4月に行われるオリエンテーションに出席してください。オリエンテーションの日程等は年度当初行事予定表に記載されております。

各課程の履修年次は以下のとおりです。

課 程 名	履 修 年 次
教 職 課 程	1年次～
学 校 図 書 館 司 書 教 諭	2年次～
博 物 館 学 芸 員	2年次～
曹 洞 宗 教 師 資 格 (2等教師)	1年次～

【教職課程】

教職課程とは、教員免許状を取得するために教育職員免許法および同法施行規則に基づいて開講されているカリキュラムです。教職課程を履修する者は、学部・学科の卒業に必要な単位数のほかに教職に関する科目の単位を修得しなければなりません。特に2年次（「教職概論」のみ1年次）からは計画的かつ積極的に履修しないと教員免許状は取得できません。

教職に関する所定の単位数を修得して申請すれば、それぞれの教科の中学校教諭1種、高等学校教諭1種の免許状が交付されます。なお、公立学校への就職については、各都道府県・政令指定都市の行う教員採用候補者選考試験に合格しなければなりません。

本学で取得可能な教員免許

国際文化学科

平成22年度以降入学生

高等学校1種免許状	公民
中学校1種免許状	社会

平成18～21年度入学生

高等学校1種免許状	英語・公民
中学校1種免許状	英語・社会

国際コミュニケーション学科

平成22年度以降入学生

高等学校1種免許状	英語
中学校1種免許状	英語

平成18～21年度入学生

高等学校1種免許状	英語・情報
中学校1種免許状	英語

【学校図書館司書教諭】

学校図書館司書教諭とは、小・中・高校の学校図書館の管理・運営に従事し、生徒に読書指導・学校図書館の利用を指導し、助言を行う専門職です。資格取得のためには、教職課程と併せて指定の科目を履修する必要があります。（「図書館司書」の資格とは異なります。）

【博物館学芸員】

博物館には、資料の収集、保管、展示、調査研究などのための専門職員として学芸員が配置されます。資格取得には、2年次から所定の科目の単位を修得する必要があります。

詳細は、学芸員課程ウェブサイト（<http://www.t-komazawa.ac.jp/org/gakugei/>）にも掲載しております。

【曹洞宗教師資格（2等教師）】

曹洞宗の僧籍を有し仏教専修科に登録した者で、在学中に下記の所定の科目を履修し、特殊安居を3回以上修了すれば、無試験で曹洞宗教師資格（2等教師）の資格が取得できます。

学 科 目	単位数	科 目 名 称
禅学実習	8 単位	坐禅A～D (仏教専修科所定の課外活動を含む)
宗学	4 単位	曹洞宗学1・2
仏教学	4 単位	仏教学／インド仏教史1・2
教化学	2 単位	ボランティア活動
宗教一般	4 単位	宗教学 比較宗教論
仏教一般	4 単位	仏教史特講A～D 中国仏教史 日本仏教史
禅一般	4 単位	中国禅思想史 日本禅思想史 禅文化論
計	30 単位	

6 履修科目の登録方法

(1) 履修科目の登録

所属する学科・年次に開講されている授業科目から、履修を希望する科目を登録することにより、授業を受けることができます。なお、登録は履修登録届の提出、登録内容の確認の両方を行わなければ完了しません。

(2) 履修登録のための諸注意

①履修登録

履修登録届を担任（アドバイザー）等の「履修指導担当教員」の指導を受けて作成します。作成した登録届に履修指導サイン（押印）をもらい、担当教員に提出してください。年2回、4月と9月にそれぞれ指定された日時に登録を行います。

②時間割について

1. 学科、学年ごとに時間割があります。自分に当てはまる時間割を参照してください。
2. 集中講義の日程・時間は集中講義時間割を参照してください。
3. 網掛けされている科目は2コマ連続で開講されています。双方の履修が必要です。
同一時限に開講されている他の科目は履修できません。

③授業案内に記載されている配当年次に従って履修してください。

ただし、再履修の場合を除きます。また、履修条件により履修が認められない科目がありますので授業案内や担当教員に確認の上、履修登録をしてください。

(例：ドイツ語2はドイツ語1をすでに修得していること。)

④「専門ゼミナール」(必修)は原則として1, 2, 3の順番に履修します。

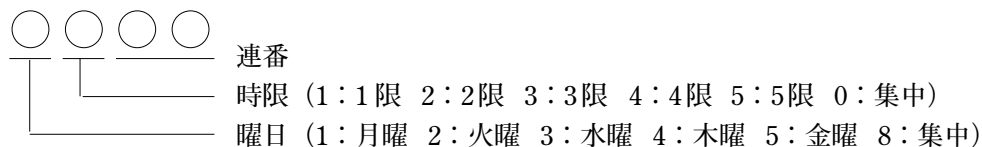
専門ゼミナール3は専門ゼミナール2を、専門ゼミナール2は専門ゼミナール1をすでに1回以上履修登録し、期末試験の受験資格を得ていなければ履修できません（この場合成績がFでもかまいません）。

科目名	単位	履修年次
専門ゼミナール1	2	2年次 秋semester
専門ゼミナール2	2	3年次 春semester
専門ゼミナール3	2	3年次 秋semester

なお、秋入学生・編入学生の「専門ゼミナール」履修方法については、別紙「専門ゼミナールの履修モデル」を参照してください。詳しくは教務課窓口でご確認ください。

⑤「フィールドワーク」(平成18~21年度入学生は「海外研修」)は、後日説明会がありますが受講希望者は当該semesterのはじめに、他の科目と一緒に履修登録をしてください。履修登録者が10名以下の場合実施できない場合があります。

⑥履修コードの見方



(3) 受講承認印が必要な科目について

1. 以下の科目は、教育効果などを考慮して1クラス当たりの履修人数が制限されています。履修には担当教員の受講承認印又はサインが必要です。これらの科目については、担当教員の受講承認印または出席カードがなければ履修はできません。

受講承認印が必要な科目一覧

春Semester	*1) 「英語1・2」「Freshman English」「Advanced English」 「英会話1・2」「Communication English (初級1・2)」 *2) 「情報処理入門」「情報処理B」「データマイニング」 「情報検索と問題解決」「情報の検索と発信」「マルチメディア」 *3) 「ボランティア活動」 *4) 「伝統文化A (茶道)」「伝統文化B (華道)」 「専門ゼミナール2」
秋Semester	*1) 「英語1・2」「Freshman English」「Advanced English」 「英会話1・2」「Communication English (初級1・2)」 *2) 「情報処理E、F」「表計算」「データベース」 「情報特別演習A」 *4) 「伝統文化C (書道)」「伝統文化D (アイヌ)」 「専門ゼミナール1・3」

- *1) 「英語1・2」「Freshman English」「Advanced English」「英会話1・2」「Communication English (初級1・2)」の受講を希望する場合は、オリエンテーション期間中に行われるプレイメントテストを受けてください。なお、このテストの結果は成績評価には影響しません。

クラス分け一覧表は教務課前ホールに掲示しますので、自分のクラスを確認し担当教員から受講承認印をもらってください。

- *2) 「情報系科目」を受講する場合は、オリエンテーション期間中の情報処理オリエンテーションに参加し、受講承認印をもらってください。受講承認印がない場合は、履修登録ができませんので注意してください。

- *3) 集中講義の「ボランティア活動」はオリエンテーション期間中の「ボランティア活動説明会」に参加し出席カードを提出してください。出席カードを提出しない場合は、履修登録ができませんので注意してください。

- *4) 「伝統文化」の受講を希望する場合は、オリエンテーション期間中の教務課オリエンテーション時に配付される「受講申込書」を受け取って提出してください。上級年次の学生より優先して受講を認めます。

受講可能者一覧は、教務課前ホールに掲示しますので、受講が認められたのを確認してから履修登録届に記載してください。(受講定員40名)

※伝統文化A～Dの単位は各1単位です。**2単位を上限**として選択してください。

2. 受講承認印が必要な科目は自分が履修したい科目の担当教員から受講承認印又はサインをもらってください。履修希望者が定員を超えた場合は、各担当教員が受講者を選定します。

(4) 受講承認印のもらい方

配布済みの「履修登録届」に該当科目の履修コード（学年により異なるので、自分に当てはまる時間割で確認する）、教員名を記入し、その備考欄に担当教員の押印又はサインをもらう（履修登録用紙の記入の仕方はオリエンテーション時に配付する履修登録届記入例を参照してください）。

(5) 履修登録の日程について

(春semester)

手続き	対象学年	日 時	備 考
履修登録用紙配布	全学年	4月5日(火)	配付時間： 教務課オリエンテーション時
授業開始	全学年	4月11日(月)	
履修登録	2~4年	4月5日(火)~11日(月)17時迄	提出先：担当教員
	1年生	4月5日(火)~13日(水)17時迄	
履修登録確認	2~4年	4月13日(水)、14日(木)17時迄	場所：教務課窓口 ※学生証持参
	1年生	4月15日(金)17時迄	

(秋semester)

手続き	対象学年	日 時	備 考
履修登録用紙配布	全学年	9月16日(金)	配付時間： 教務課オリエンテーション時
授業開始	全学年	9月20日(火)	
履修登録	全学年	9月16日(金)~26日(月)17時迄	提出先：担当教員
履修登録確認	全学年	9月29日(木)、30日(金)17時迄	場所：教務課窓口 ※学生証持参

(6) 履修登録確認について

履修登録確認は自分が履修登録届に記載した科目が、正しく機械処理されているかを確認する重要な手続きです。履修登録確認をしなければ、自分が履修する科目が確定されませんので、各自が責任を持って必ず手続きを行ってください。

【履修登録確認の手順】

1. 教務課窓口で「履修登録届の写し」とそれを機械入力したもの「単位履修登録届（2枚）」を本人（学生証で確認）に配布します。
2. 自分が「履修登録届」で記載した科目が正しく「単位履修登録届」に記載されているかを確認してください。この時、履修コード、科目名を必ず確認してください。履修コードに誤りがあると全く違う科目が登録されますので注意してください。
3. 記載内容に誤りがなければ「単位履修登録届」の1枚に署名をし、学年別の箱に提出してください。「履修登録届の写し」ともう1枚の「単位履修登録届」は各自の控えにしてください。
4. 記載内容に誤りがあった場合、その日のうちに教務課まで訂正を申し出てください。

(7) 履修科目の取り消しについて

～履修科目を大切にしよう～

「登録しただけ」の科目で成績表が「Fの限りない羅列」になっていませんか。履修科目の授業を受講してみたものの、その内容が意図していたものと違っていたとか、授業内容を理解するだけの知識や準備が足りなかったことなどから、授業を履修途中で断念した場合など、成績表にはそのまま「F」が記載されます。また、奨学生や諸表彰の選考時に不利益を被ることもあります。

履修科目の取り消しを希望する学生は、教務課にて取り消し手続きを行ってください。期間外の取り消しは一切受けませんので注意してください。

1. **受付期間**：春 Semester 5月11日（水）～5月13日（金）
秋 Semester 10月19日（水）～10月21日（金）
2. **受付場所**：教務課窓口
3. **受付時間**：午前9：00～午後5：00
4. **確認期間**：春 Semester 5月13日（金）～5月16日（月）
秋 Semester 10月21日（金）～10月24日（月）

◇ 履修取り消しに関する注意事項 ◇

- ・卒業要件単位には、十分に注意してください。
- ・取り消した単位数を次 Semester に加算して登録することは出来ません。
- ・履修科目の追加および変更はできません。
- ・「大学入門ゼミナール 1、2」「人数指定科目」は取り消しできません。
- ・取り消し科目の教科書の返品は一切できません。
- ・取り消し期間、取り消し確認期間に教育実習等の事情で手続きできない人は、事前に必ず教務課まで申し出てください。

(8) 教科書・参考書販売について

◆教科書

教科書指定のある科目は、教科書を持参しないと受講が認められませんので、必ず入手してください。購入する場合は、教務課前に置いてある購入表と申込書に必要事項を記入し、教科書販売期間中に購入するようにしてください。なお、期間中に購入できなかった場合は、学内売店にて注文してください。(在庫状況により、発注から納品まで時間を要す場合があります。)

◆参考書

参考書が必要な場合は、各自インターネットや書店で購入してください。

(9) 履修制限について —— セメスター毎の履修単位に上限があります

※自分にあった履修科目の分量で時間割を設定してください。

1 単位あたりの学習時間が法令で定められています。(大学設置基準)

※1セメスター20単位取得する場合⇒毎日7、8時間、教室外での学習が必要です。

「授業に出たから単位がもらえる」ものではありません。

【大学設置基準】第21条

「1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、・・・単位を計算する・・・」とあります。

【予習 → 授業 → 復習】の学習時間全体で単位が認定されます。

本学では、原則として2単位30時間の授業時間が設定されています。法令では「2単位あたり90時間の学習時間」が必要となることから、1科目につき60時間の予習・復習が必要となります。

1セメスターで「20単位」取得する場合

「20単位×45時間＝900時間」の学習時間が必要となります。教室内での学習時間300時間を差し引くと600時間、教室外での学習が必要となります。1セメスターの授業期間を100日とすると、1日あたり7、8時間の計算になります。

授業時間だけが成績評価の対象になるのではなく、予習・復習の時間がとても大切です。

以上の理由から、履修単位に上限を設けています。

【平成21年度以降入学生】

学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
学 期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
単位数	22	22	22	22	22	22	22	22

1. 国際文化学科、国際コミュニケーション学科共に適用されます。
2. 22 単位の中には「卒業要件単位」に加算されない「教職科目」「司書科目」「学芸員科目」の単位、集中講義期間中に開講される科目の単位を含みません。
3. 平成22年度以降入学生は、学期 GPA が3.0 以上の場合に次学期の履修単位上限を26 単位とします。

【平成20年度以前入学生】

学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
学 期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
単位数	26	26	26	26	26	26	制限なし	制限なし

1. 国際文化学科、国際コミュニケーション学科共に適用されます。
2. 26単位の中には「卒業要件単位」に加算されない「教職科目」「司書科目」「学芸員科目」の単位を含みません。

(10) 履修登録届の記入例

2017年度 履修登録届

履修指導担当教員 学生番号 A74XXXX

秋 セメスター 提出 年 月 日 印 氏名 駒澤太郎

曜日	時限	履修コード	科目名	担当教員名	受講承認印	備考
月	1	1101	英会話1	ロバートCオルソン	ROB	例①
	2	:::::				
	3	:::::				
	4	:::::				
	5	1501	システム設計	伊藤博文		
火	1	:::::				
	2	:::::				
	3	2901	坐禅A	佐久間賢祐		例② 例③
	4	2901	坐禅A	佐久間賢祐		
	5	:::::				
水	1	:::::				
	2	:::::				
	3	1501	システム設計	伊藤博文		
	4	:::::				
	5	:::::				
木	1	:::::				
	2	:::::				
	3	:::::				
	4	:::::				
	5	:::::				
金	1	5101	大学入門ゼミナール1	藤島宗紀		例④
	2	:::::				
	3	:::::				
	4	:::::				
	5	:::::				
集中		8001	ボランティア活動	藤島・金内		例⑤
		:::::				
		:::::				
		:::::				

※受講承認印が必要な科目のみ承認印又はサインが必要です。

- 例①「英会話1」などの受講承認印が必要な科目
 - 例②「坐禅A」などの2コマ続きの科目
 - 例③「システム設計」などの4単位科目
 - 例④「大学入門ゼミナール1」などのクラスが決まっている科目
 - 例⑤「ボランティア活動」などの集中講義
- ※正しい履修コードは時間割や「専門科目コード一覧」でご確認ください。

7 講義について

(1) 授業時間について

1. 授業時間は、1講時（1コマ）90分で行います。また、各講時の間は、10分間の休憩時間があります。
2. 正当な理由がなく30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。

時 限	授 業 時 間
1時限	9：00～10：30
2時限	10：40～12：10
3時限	13：00～14：30
4時限	14：40～16：10
5時限	16：20～17：50

【集中講義】

通常の授業開講週以外の夏季、冬季、春季休業あるいは土曜日、日曜日などに特別に時間割を組み授業を行います。集中講義を行う科目は、集中講義時間割に記載しています。詳細は、事前に掲示しますので、掲示板にて確認してください。

(2) 受講上の注意について

【受講マナー】

1. 静粛かつ真剣に受講してください。私語は禁止します。
2. 著しく受講態度の悪い学生は、その時限、またはその学期の受講が停止される場合があります。
3. 携帯電話の使用を禁止します。
4. 授業中の飲食は禁止します。
5. 万一、何らかの事情で授業に遅刻して入室しなければならないときは、必ず授業担当者にその旨を報告の上、着席してください。
6. 授業中に無断で退出することを禁止します。

【教室でのマナー】

1. 消し忘れの板書は消し、清潔な教室を常に心がけましょう。
2. 授業終了後、不要な照明はスイッチを切ってから退出しましょう。
3. 教室を利用して飲食をする場合は、ゴミを教室に捨てないで、所定の場所に分別して捨てましょう。
4. 机・椅子を移動した場合は元の状態に戻してください。

(3) 欠席について

講義を欠席する場合は、証明する書類を添付して事前に提出することを原則とします。事前に提出できない場合は欠席後、速やかに提出してください。担当が専任教員（教授・准教授・講師）の場合は直接提出、非常勤講師で不在の場合は教務課に提出してください。

専任教員と非常勤講師の別は、授業案内の各科目担当者名の上に記載されています。

a) 教育実習及び介護等体験及び博物館学実習

- ・教職・学芸員委員長の証明のある指定の欠席届を提出する。

b) 病気

- ・欠席届に医師の診断書を添付して提出する。
(診断書を提出できない場合は保証人の証明書を添付する。)

c) 就職活動（試験・会社訪問・説明会）

- ・学生サポートセンターから専用の欠席届を事前に受け取り、主催者から参加・出席承認印をもらい提出する。
- ・就職活動における欠席は同一科目において3回（4単位科目は6回）までとする。

d) 交通機関

- ・欠席届に遅延証明書または運行停止証明書を添付して提出する。

e) 慶弔

- ・欠席届に保証人が証明した届出書を添付する。
- ・3親等以内の身内の場合に限る。

f) 災害

- ・欠席届に罹災証明書を添付して提出する。

g) 課外活動

- ・学連主催等公式の大会の場合を認め、顧問・監督からの証明印のある欠席届に開催要領を添付して提出する。

h) その他

- ・上記以外の理由で授業を欠席する（した）場合も、必ず欠席届を提出する。

コース研究室について

2010年7月より、研究講義棟の3階と4階に学生用の「コース研究室」を開設しました。コース研究室は本学で学ぶ学生が、学習、休憩、交流などに使う部屋です。コース研究室に使われる部屋は、もともと教員の研究室用に用意されたものですので、教員研究室と同様に、机や椅子、本棚やロッカーなどが設置され、学習や交流の場として活用できます。

所属コース（学科）の研究室の鍵は、教務課の窓口で借りることができます。使用時間は、8時30分から21時までですので、授業が終わってから活用することもできます。

(4) 休講について

休講は担当教員により連絡が入り次第、休講インフォメーション及び携帯サイトにて連絡します。始業後30分経過しても担当教員の入室がない場合には、教務課に申し出て指示を受けて下さい。

- DOCOMO の方は、 <http://www.t-komazawa.ac.jp/i/>
- SoftBank の方は、 <http://www.t-komazawa.ac.jp/j/>
- au の方は、 <http://www.t-komazawa.ac.jp/ez/>



携帯サイト利用における注意点

このサービスはあくまでも学内掲示を補うものとして用意されたものです。急な休講や取消については、対応できない場合もあります。必ず学内の掲示板でも確認して下さい。また、「重要なお知らせ」についても大学から皆さんに発信する情報の一部にしかすぎません。様々な必要な情報が掲示ホールに貼り出されています。

必ず確認するようにしましょう。

(5) 補講について

やむを得ない事情により休講した授業、または休講を予定している授業については、授業を補うために補講を行う場合があります。補講を行う授業については教務課掲示板にて連絡します。

補講期間 春semester 7月16日(土)、23日(土)、30日(土)

秋semester 12月17日(土)、1月21日(土)、28日(土)

(6) 教場変更について

担当教員の届け出により、授業教場が変更になることを教場変更と呼び、教場変更インフォメーションに掲示されます。履修登録・確認が完了した時期は、受講者数が確定することにより適切な教場へと変更するため大幅な教場変更が行われます。

不明な点について

科目の内容や履修の方法について不明な点があれば、学科やコースの先生に積極的に相談するようにしましょう。卒業のため、あるいは教職又は資格の取得のための要件など、制度上のことでの不明な点については教務課の職員に遠慮なく声をかけてください。

8 試験および成績評価

(1) 試験の種類

1. 定期試験

- ①春semesterは8月に、秋semesterは1月下旬から2月上旬に実施します。
- ②受験科目は、正規の手続きを経て履修登録した科目で、受験資格を得たものに限ります。
- ③試験時間割は、試験1週間前に発表します。
- ④受験資格のない学生は、試験1週間前に掲示します。
- ⑤筆記試験の代わりに、実技やレポートを課せられる場合があります。その課題についても掲示でお知らせします。
- ⑥定期試験受験上の注意事項は、試験1週間前に掲示します。
やむを得ない理由で試験（レポート、実技などを含む）が受験できなかった場合は、試験日から1週間以内に、理由書を添えた「定期試験欠席届」を教務課に提出してください。

2. 追試験

「定期試験欠席届」を提出し承認された場合は、追試験を願い出ることができます。追試験料は徴収しません。

◆追試験が認められる主な理由

a) 病気

- ・定期試験欠席届に診断書（医師）を添付して提出する。（医師の診断書以外は無効とする）

b) 就職試験

- ・定期試験欠席届に受験証明書を添付して提出する。

c) 交通機関

- ・定期試験欠席届に遅延証明書または運行停止証明書を添付して提出する。

d) 忌引き

- ・定期試験欠席届に保証人が証明した届出書を添付し提出する。
- ・3親等以内の身内の場合に限る。

e) その他

- ・上記以外の理由の場合は、事前に定期試験欠席届と文書を教務課に提出し、教授会の承認を得る。

3. 再試験

不合格となった科目は、受験料（1単位500円）を添えて再試験を願い出ることができます。ただし、再試験は、卒業年次でのみ実施します。3年次生以下の学生は不合格の科目については再履修してください。

(2) 受験資格

出席すべき時間数の3分の1以上を欠席した場合、当該科目の受験資格が認められない場合があります。受験無資格者については、試験1週間前に教務課掲示板にお知らせします。

(3) 受験心得

1. 受験にあたっては、監督者の指示に従うこと。
2. 学生証は、必ず机の上に呈示しておくこと。(学生証を忘れた場合は、教務課にて仮受験票の手続きを行うこと。)
3. 使用が許可されていないノート・教科書・参考書は持ち込まないこと。筆記用具以外は、机の下に置くこと。
4. 試験開始から30分以上経過した場合は、受験できない。また、試験開始後30分経過した場合は途中退出できるが試験終了時刻まで教場に戻ることはできない。
5. 不正行為を行った者は、当該科目の単位は不認定となり、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
6. 携帯電話の電源は必ず切っておくこと。

(4) 試験時間

春及び秋セメスターの定期試験は、通常の授業時間割に従って行われます。試験時間は原則として60分です。

時 限	試 験 時 間
1 時限	9 : 00 ~ 10 : 00
2 時限	10 : 40 ~ 11 : 40
3 時限	13 : 00 ~ 14 : 00
4 時限	14 : 40 ~ 15 : 40
5 時限	16 : 20 ~ 17 : 20

(5) 成績評価・単位認定

(平成22年度以降入学生)

1. 成績評価は、「S」「A」「B」「C」「F」とし、次のとおりGP (Grade Point) を付与します。

評 価	評 点	G P
S	90 ~ 100 点	4
A	80 ~ 89 点	3
B	70 ~ 79 点	2
C	60 ~ 69 点	1
T	認定	対象外
F	59 点以下	0

2. GPA (Grade Point Average) の数値は、各科目で取得したGPに当該科目単位数を乗じ、その総和を履修登録科目総単位数で割ります。(小数点第2位まで表示し、小数点第3位を四捨五入します。) 個々の教員から提出された成績(評点による)を成績評価別のGPに変換し、GPAの値を算出します。

$$GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{その科目で取得したGP}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

※Fとなった科目は再履修することができ、再履修の結果、合格点を得た場合は、前回の評価が上書きされます。

3. 出席状況、授業間試験、レポートなどの成績を総合評価して、合格した科目については規定の単位を認定します。
4. 追試験の成績評価は、定期試験に準じます。
5. 成績評価の基準は各科目の授業案内に記載のとおりです。

(平成21年度以前入学生)

1. 定期試験の成績評価は、優（80～100点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（0～59点）とし、「可」以上を合格とします。
2. 履修状況、試験、レポートなどの成績を総合評価して、合格の成績評価を得た科目については規定の単位を認定します。
3. 追試験の成績評価は、定期試験に準じます。
4. 再試験の成績評価は、60点を最高点とします。
5. 成績評価の基準は各科目のシラバスに記載のとおりです。

(6) 成績発表および質疑

1. 履修科目の成績は、「成績表」を各自に交付し通知します。

	4年次		1～3年次	
	学生	保証人	学生	保証人
春semester	8月下旬	9月中旬	9月中旬	9月中旬
	窓口交付	郵送	オリエンテーション時に交付	郵送
秋semester	2月下旬	3月上旬	3月上旬	3月上旬
	窓口交付	郵送	郵送	郵送

2. 成績評価の質疑は、成績評価質問日以内に専任教員の場合は、直接担当教員に申し出てください。非常勤講師の場合は、教務課窓口質問用紙を提出してください。

(注意) 卒業年次生にとって3月の成績発表および追・再試験の成績発表は、卒業が可能かどうかを確認する重要な手続きですので、本人が必ず発表を受けてください。

～成績評価の厳正化について～

去る平成20年12月24日に中央教育審議会から『学士課程教育の構築に向けて』と題する答申が公表されました。この答申には「学習時間の確保など単位制度の実質化」「成績評価の厳正化」等を柱として、大学改革の具体的な方策が提言されています。我が国の大学教育をめぐっては、「出口管理」の強化、卒業認定などの評価の厳格化が大きな課題ともなっています。このような情勢を受けて、本学においても平成20年度より成績評価の透明化、厳正化の向上を目的として、「成績評価の指針」並びに「成績評価に関する確認事項」を制定し実施しております。